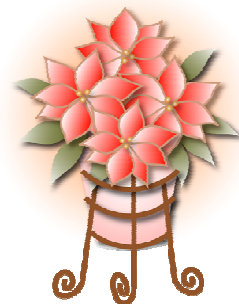


# たより

～城田幼稚園公開保育研究会～

## 子ども達の輝く瞳に魅せられて



「いらっしゃいませ！」

元気な子ども達の声が聞こえてきます。ここは、森のファミリーレストラン。子ども達は全員レストランスタッフ、研究会参加者はお客さんです。

「どちらにしますか？」

「こちらへどうぞ！」

と、お客さんに声をかける子ども達。笑顔いっぱい大きな声で案内してくれます。

お店では、メニューが選べるようになっていて、お客さんがお好みのランチとデザートができあがります。

「どれが一番おいしいですか？」

とお客さんにきかれると、少し考えてから、

「抹茶はいかがですか。人気があります。」

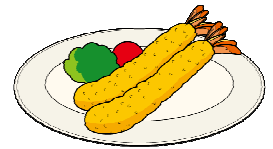
と、晴れやかな顔ですすすめます。自分で考えて、答えを見つけ出した瞬間です。考えて、やってみて、うまくいかない時はまた考えて・・・自分の力でハードルを越える度、自信にあふれ、瞳がきらきら輝きます。

お客さんの数に合わせて水を用意している子、返却された食器を種類別にもとにもどしている子、お客さんにわかるように案内をする子等、それぞれの役割の中に、豊かな学びが見事に溶け込んでいます。自ら考え、工夫し、創造する活動の中で、子ども達は確実に力を蓄えていくのです。

このような豊かな活動の背景には、先生達の練り上げられたしかけがあります。子ども達の姿を見極め、一人ひとりの役割に応じて声をかける先生達。その度、子ども達の活動はさらに生き生きとしたものになっていきます。実に見事なプロの技ですね。



## 城田幼稚園の研究



城田幼稚園は、「友達と仲間になり、生き生きと活動する幼児をめざして」を研究主題とし、様々な人とのかかわりを大切にして研究を進めてきました。



まずはじめに、豊かな自然、地域の人とのつながりが深いという地域性を活かしながら、仲間作りを育む環境とは何か、教師がどう援助・配慮していくべきかを検討しました。そして、年間計画を作成し、体験活動を多く取り入れた実践を繰り返してきました。

体験活動では、様々な人とのかかわりを取り入れました。家族や保護者とのかかわりをはじめとし、地域の人々や小中学生とのかかわりもとりました。さらに、高齢者や他園の幼児とのかかわりも大切にしました。また、英語や音楽、書道などの専門家をゲストティチャーとして招き、深い学びを展開しました。このような豊かなかかわりを通して、子ども達の課題が明らかになるだけでなく、それぞれの個性や新たな一面を発見することができました。そして、子ども一人ひとりに対しよりきめ細やかな支援ができるようになりました。

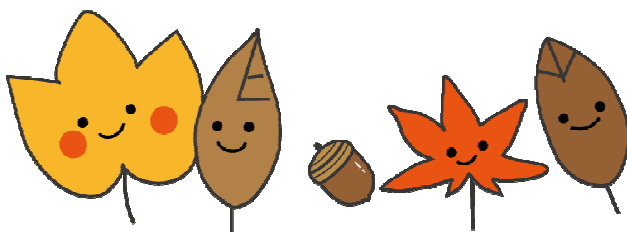
子ども達の豊かな人間関係を支えるのは、教師との信頼関係です。教師が、目の前の子どもの姿をありのままに受け止め、理解することが大切なのです。そのためには、日々の保育の中で、「子どもの話をしっかり聞くこと」「教師自身の思いや考えは、子どもに合わせてわかりやすく伝えること」を積み重ねていく必要があるのです。

心豊かな子ども達は、それぞれに自己発揮して活躍できるようになります。そして、協力し合いながら互いに認め合える集団をつくっていくのです。

私たちの取組みはこれからも続きます。研究会を通して、

- ・子どもの把握（生活背景も含めて）
- ・かかわれる環境づくり（様々な場の設定）
- ・子どもの自発性を引き出す教師のかかわりなどについて、たくさんのかかわりを学びました。

これからも、保護者・地域等との連携を密にしながら、子ども一人ひとりの発達を援助し、小学校の学びへとつなげていきたいと思っております。



## こどもの輝く笑顔を生み出す援助の輪

### ～たすけを求めることの大切さ～

講師 梅花女子大学教授 太田 仁 先生

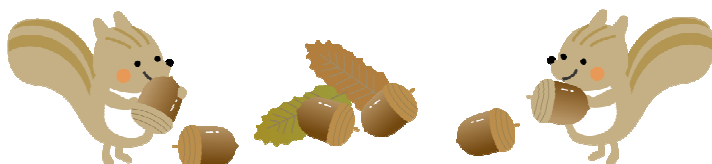


国家公務員である法務教官として少年院に勤めていた話、教師として子ども達や家族のサポートをしたいと思った話など、やわらかい話し方に引き込まれていきます。そして、社会心理学を研究しているという話から、人と人とがどうかかわるのか、具体的な話が始まりました。

「お帰り～っ。えらかったねえ～っ。」と思いきり抱きしめることで、子どもは「帰ってきてよかった！明日もがんばろう！」と思えるのだと先生は話します。ほめられると誰でもいい気分になるし、意欲も高まりますよね。ただ、タイミングも大切だとつけ加えます。子どもがほめてほしいと思っている時を見極めた上で、ほめるという場面をつくるのが、子ども達の笑顔を引き出すのかもしれない。

続いて、子ども達への効果的なサポートについてのお話がありました。上手な応援・援助には2つあると言います。一つは、先に述べたタイミング。もう一つは、関係。つまり、人と人との関係が社会であり、社会的になるというのは「人と力を合わせて何かをする」という事なのだとは話が進みます。社会とはすなわち集団のことであり、集団とはすなわち一つの目標に向かって動くことができる機能的な集まりのことだと言うのです。城田幼稚園が、「様々な人とのかかわり」の中で子ども達を伸ばすタイミングを大切にしてきた理由がここにあるのだと、改めて納得しました。

子どもをサポートする場合の、教師と子どもの関係性についても話されました。普段から話していない人からほめられても不自然ですから、日ごろから関係性をつくっていくことが大切だと先生は話します。「ちょっと助けて。」と子どもに頼むことで、子どもは進んで大人を助けるようになる。このことが、子どもへの一番のサポートだともつけ加えられました。



- ・少ない人数の中でも、一人一人の個性がよく引き出され、素晴らしい実践ができていて、とても感心させられた。
- ・お店屋さんは工夫もあって、子どもたちと先生が作ってきたものなのだと心が温かくなった。去年担任していた子が、元気に接客をしてくれて、少人数でゆったり見てもらい、自分も発揮して成長しているのだと嬉しく思う。4・5歳との異年齢活動も見たかった。
- ・子どもたちの手際の良さや楽しそうな様子から、遊びこんでいる保育の姿が目についた。のびのびと子どもらしく良かった。
- ・なごやかな雰囲気の中で、園児が自分らしさを精一杯表現し、活動している姿に、研究の成果を感じる事ができた。
- ・自然物をたくさん取り入れた活動、子どもたちのしっかりした受け答えに感心した。継続して行える保育内容も魅力だった。
- ・子どもの生き生きとした活動、表情がすばらしかった。5歳児がうまく4歳児をリードして、どの子も自信を持ってレストランごっこを楽しんでいたように思う。
  - ・子どもたち一人一人が自分の役割をしっかり果たしている姿に感心した。知らない人が大勢いる中でも、笑顔で大きな声を出す事ができている子どもたちの姿が良かった。
- ・子どもたちのやりたいことを取り入れた活動を見せてもらえた。少人数で子どもたちも、ゆったりとした雰囲気の中でのびのびと過ごしていて、自然も身近にあり、自然の遊びも見られて良かった。異年齢の関わりも自然な様子で、少人数のメリットをよく見せてもらった。
- ・講演は、とてもわかりやすく、身近に考える事ができた。自分自身のリアルタイムな課題についての話で、実際にもう一度見直すと共に実践していきたいと思った。
- ・自分の保育を振り返り反省する点が多々あった。園に戻り、子どもをたくさん褒めたいと思う。
- ・子どもにとって対人関係がいかに大切かを知り、自分の保育を見直す良い機会になった。
- ・講演はとても楽しく聞く事ができた。褒めることはいつもしているが、自分は本当に上手く褒めているのかと改めて考える機会になった。

